オーディオ実験室収載

Garrard 401 の整備(1)(HP 収載)
―再結線と試聴―

１． はじめに

このところしばらく、My Sonic のカートリッジとトランスを LINN の LP-12 にとりつけて楽しんできており、Garrard 401 は、EMT XSD-15 用ステップアップトランスの試聴シリーズの報告以来、集中的に試聴してきていません。今回、LP-12 の整備も進んできたことから、Garrard 401 の整備を行うこととしました。

２． Garrard 401 の整備と試聴方法

Garrard 401 のシステムはアームが Audio Craft の AC300Ⅱで、カートリッジは EMT の XSD-15 を取り付けています。これらはそのままとし、ターンテーブルシート、トランス、フォノイコ、その他アクセサリーを検討していきます。

フォノイコは、LP-12 の方が Brooklyn DAC+の導入以後、Brooklyn DAC+のフォノ入力を使用していますので、それまで使用していた iPhono 2 台が余ってきています。それ故、iPhono 2 台の L/R 独立使用をそのまま引き継ぎます。これらには、アモルメット、iFI の iPurifier DC、iPower、タップへの iPurifier AC 追加と iPurifier AC からのアースなどの手を加えていますので、それらもそのまま引き継ぎます。

トランスは、手始めに以前から汎用してきて、中庸でニュートラルで表現力もある Bayer のマイクトランスを使用し、以後、いろいろ取り換えてみます。

ターンテーブルシートは、マイクロの銅板のシートの上に、自作のアクションパッドのシートを敷いていましたが、アクションパッドのシートは LP-12 の方に使用していますので、foQ シートに替えます。

まずは、上記の状態からスタートし、アクセサリー類を検討してみます。

３． Garrard 401 の試聴結果

しばらく、結線もせず、鳴らしこみを行っていませんでしたが、無事再生可能となりましたので、ターンテーブル周りを調整していきます。

まずは、foQ シートの上に、アナログ関連アクセサリーの試聴(12)で報告した、美濃紙のシートを敷いてみます。

また、アナログ関連アクセサリーの試聴(13)で報告した、EL-AEX-Vol.3（エレスタ・アナログディスク EX）の効果や foQ のスタビライザーなどの効果を調べてみます。

まず、アクセサリー追加なしの出発点の音は、ターンテーブルシートを foQ シートにしたことや、タップへの iPurifier AC 追加と iPurifier AC からのアースの効果などで、以前の印象と違って、中庸でニュートラル、かつバランスの良さはそのままに、抜けの良さが加わった印象です。

美濃紙のシートを foQ のシートの上に敷きますと、foQ のシートだけだと、ディスクの制振が効きすぎた感じですが、美濃紙のシート追加で躍動感が出てきます。

エレスタの EL-AEX-Vol.3 を美濃紙のシートの上に敷き、ディスクの上に foQ のスタビライザーを載せますと、音の角が取れて滑らかになり、空間表現が向上します。このことは、LP-12 で経験したエレスタの EL-AEX-Vol.3 の効果と同様です。

４．まとめ

トランスに Bayer のマイクトランスを使用した場合、アモルメット、iFI の iPurifier DC、iPower、タップへの iPurifier AC 追加と iPurifier AC からのアースなどの手を加えてきた効果が確認できました。Garrard 401 のシステムが整備され、さらに、アクセサリーの採用も固まってきましたので、トランスの聴き比べ等、次のステップに進むことができます。

以上